

# 沖縄研修報告書

生活相談員 吉岡 伸憲

研修日時：12/8(火)～12/10(木)

場所：特別養護老人ホーム本部園

まず初めに、お忙しい中今回の研修を快く受け入れて下さった本部園理事長様、職員の皆様、また気持ちよく送り出してくれた白寿苑の皆様にご感謝申し上げます。

本部園様での研修と言うだけでなく、沖縄に来るのが初めてと言うこともありとても緊張していましたが、久場事務長様、仲尾介護課長様、職員の皆様が温かく迎えて下さり、緊張がほぐれるのにあまり時間はかかりませんでした。また、長時間の移動と言うこともあり疲れていたのですが、ご用意頂いた食事、宿泊施設の設備がしっかりしており、翌日からの研修に安心して臨む事が出来ました。

研修初日のオリエンテーションでは、久場事務長様から沖縄の風習・文化について教えて頂きました。その中の一つに生年祝い(トゥシビー)と言うものがあり、生まれた年の干支の年に無病息災を願って祝うものだそうです。数え年の13歳で初めてのトゥシビーを祝い、以後25, 37, 49, 61, 73, 85, 97歳までトゥシビーがあります。現在ではめでたいことが強調されるようになっていますが、もとは生まれ年は厄年とする考え方があり、災難を無事に切り抜けられるように願立てをし、その年は忌み慎むことを心がけていたそうです。

トゥシビーとは別に、トーカチと呼ばれる88歳(米寿)の祝いがあり、今ではトゥシビー祝いの一つとして盛大に祝う人が増えてきたそうです。97歳のトゥシビーはカジマヤーと呼び、カジマヤーの意味は、童心にかえってカジマヤー(風車)で遊ぶ儀式から命名された説と、死装束をまとって模擬葬式を行いカジマヤー(七つの辻)をまわる儀式からつけられた説の二つあるそうです。また、97歳になるとオープンカーに乗り集落をパレードし風車を近隣の方々に配り歩いて盛大にお祝いをするそうです。本部園様の廊下には沢山のカジマヤーの入所者様の写真がきれいに飾られていました。他にも魔物が砕け散る石敢當、あの世で使うお金ウチカビなどについても教えて頂き、沖縄の独特の風習・文化を知る事が出来ました。

その後各施設の中を大城相談員さんに案内して頂き、特養、デイサービス、住宅型有料老人ホームを拝見させて頂きました。その際に、本部園様に入所されている方は身内や近所の方、お知り合いの方がほとんどだとお聞きし驚きました。また、同じ名字の方が多いので、入所者様は名前と呼ぶようにしているそうです。次に職員の方がDSを持って見えたのでお聞きすると、本部園様ではDSとパソコンを使用して記録を行い、情報

を共有しているとのこと。白寿苑でも介護ソフトを使用し情報を共有していますが、入力などに少し手間がかかる為、もう少し手軽に出来るようになると良いと感じました。今回の研修で驚いたものの一つが、本部園様ではセンサーを職員が手作りしている事でした。センサーも一種類ではなく各利用される方に合ったもので、立ち上がった際に鳴るもの、踏んだ時に鳴るものなど様々でした。手作りですが実用性があり、購入すると数万円かかるものが数千円で出来るのでコスト削減にもつながる。ただ、毎日使用すると半年ほどで劣化してくるので修繕が必要になるそうです。白寿苑でも出来るのかどうか検討していきたいと思いました。次に食事の時間になると、介護職と一緒に相談員、事務員、看護師など他職種の方も一緒に介助を行っていました。そうすることにより、入所者様のその日の体調やコミュニケーションが図れ、また他職種の職員とのコミュニケーションも図れるので情報も共有しやすくなるのでとても良い事だと感じました。

研修二日目はリハメイク&ドライブレクがあり、午前にはリハメイクがあり、拝見させていただく事が出来ました。職員さんが入所者様に「ちゅらかーぎーになるよー(美人)」と声掛けをしながらファンデーションや口紅、マニキュアなどで化粧をするのですが、口紅やマニキュアは何色もあり、入所者様が好きな色を選んで行きます。化粧が終わると職員さんが最後に「誰に見せますか？」と尋ねると、とても素敵な笑顔で「旦那さんにみせるの」と言ってみせたのがとても印象的でした。午後からのドライブレクにも同行させていただく事が出来ました。ドライブなど短時間の時には計画書などは必要なく、入所者様の希望でどこに行きたいかを伺い、その場その場で決めていました。一人の方が「天ぷらが食べたい」、もう一人の方が「サーターアンダギーが食べたい」と言えばそれぞれ一緒に買いに行き、買ったものはすぐにその場所や走行中の車内で食べるそうです。今回も皆様とても美味しそうに食べて見えました。白寿苑の外出とは少し違う雰囲気を経験する事ができたのでとても良かったです。

研修3日目は役場などへの手続きなどがあり、大城相談員さんに同行させて頂きました。その際に、相談員業務、苦情対応、夜間の緊急時対応などについて伺い、とても参考になりました。まだ、相談員として日の浅い私にとって本部園様での研修は有意義な時間となりました。研修で学んだことを今後の仕事に活かしていきたいと思います。三日間と言う短い期間ではありましたが本部園様の職員様には大変お世話になり、本当に有難うございました。

## 社会福祉法人常盤会 特別養護老人ホーム 本部園における 沖縄研修についての報告

新井 敏敬

日時 平成 27 年 12 月 8 日 12 月 9 日 12 月 10 日 全日程 9 時～17 時

自分自身、沖縄の地を訪れるのが初めてということもあり、沖縄という全く風土の違う環境において、ソフト・ハード面でどのような違いがあるのか勉強させていただきたく本研修に臨んだ。

初日は、主に沖縄の文化について学ばせていただいた。魔除けの碑石「石敢當」や、あの世で使うお金「ウチカビ」、手作りのお守り「サングワァー」など、様々な独自の風習を説明していただき非常に興味深く感じた。また、「カジマヤー」という長寿の祝い事に伴い入居者様の正装写真が施設内に飾られていたことも素晴らしく印象に残った。

毎月、施設の広報ポスターを発行し掲示するという形式も、入居者様や来園された方に施設の魅力を分かりやすく伝えることを可能としており効果的だと感じた。

現場においても様々な工夫がみられた。

特筆すべきは、センサーマットを施設内において組み立てていることであった。安価に部品を購入し組み立てることにより、通常のセンサーマット購入に比べ相当なコストダウンに成功していた。センサーマットとしての効果も確かめさせていただいたが、問題なく作動しており、既製品よりも老朽化が早いというデメリットはあるものの、部品の交換も安価かつ簡潔に行うことが可能であり、有効な手段であることを証明していた。

また、ニンテンドー 3DS を用いて各入居者様の日常生活の記録を行い、それを PC 内の独自のシステムに送信、記録の一元化・共有化を図っていたことも興味深かった。3DS 導入当初は全職員に浸透させるのが困難であったそうだが、現在においては現場に必要不可欠なツールとして確立されていたことに感心した。そして、食事時には毎日相談員や栄養士が食事介助を手伝う為に現場に入っていたことがやはり驚いた。加えて、相談員も入浴介助を行っているという話にも驚かされた。職種にかかわらず施設内全職員で協力し合える体制は素晴らしいと感じた。

二日目には、午前中メイクリハの様子を見学させていただいた。午後に入居者様のドライブレクに同行させていただき「古宇利島」や道の駅などを巡った。

綺麗に化粧をされた入居者様が本当に嬉しそうに「旦那にみてもらうの。」と仰っていたことが印象的だった。現場に入らせていただいた時に、爪にマニキュアをされている方を結構お見かけしたのだが、ごく自然かつ日常的にそういったことが行われていることに感銘を受けた。

三日目は、午前中に現場に入らせていただき午後には美ら海水族館に連れて行っていただいた。午前中に入浴介助の様子を見学させていただいたのだが、湯船には浸からず浴槽に溜めたお湯を入居者様にかけるという方法をとっていたことに正直驚いた。聞くところによると沖縄では一年中気温が高い為、湯船に浸かるという習慣がないそうで風土の違いというものを改めて認識させられた。もちろん、希望があれば湯船にも浸かっていただくということだがほぼそういった事例はないようだ。また、総じて沖縄の方はご長寿の方が多く、100歳近くの入居者様が歩行器で歩かれていたり、車椅子の方であっても非常に会話のやり取りが明瞭な方もみえ、心底驚かされた。

研修三日目の日に雨が降り、風も大変強く台風が到来したのかと思ったのだが沖縄では普通だということで、台風の日と比較にならないほど雨風が強烈だという話を聞き、当初から気になっていた台風の日の職員の配置状況を尋ねたところ、前泊の職員にて対応するということであった。白寿苑においても同等の対応をとっているが、沖縄の台風日はバスも運行しないということや、必ずといっていいほど停電が起きるという話を聞き職員の苦勞を察した。

統括として沖縄の方は皆、暖かく人情に溢れ独特の文化の中で自由に生きているという印象を受けた。職員の方にも大変良くしていただき非常に感謝している。

本研修にて学んだことを現状とすり合わせ、少しでも現場に反映しケアの質の向上に努めていければと思う。

